

氏名	周 藤 眞 康		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1830 号		
学位授与の日付	昭和62年 9 月 30 日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学位論文題目	<b>気道液性成分からみた呼吸器疾患の研究</b> <b>第 1 編 気管支肺胞洗浄液における免疫グロブリンおよびヒスタミン</b> <b>第 2 編 気管支肺胞洗浄液における顆粒球とアリルサルファターゼ</b>		
論文審査委員	教授 太田善介	教授 佐伯清美	教授 辻 孝夫

### 学位論文内容の要旨

第 1 編 気管支喘息を中心に各種呼吸器疾患において気管支肺胞洗浄（BAL）を行い洗浄液（BALF）について検討を加えた。健康人 8 例の BALF 中 IgG/alb 比の平均は 0.28 (mg/mg), IgA/alb 比 0.19, IgM/alb 比 0.01, IgE/alb 比 0.36 (IU/mg), His/alb 比 0.67 (ng/mg) であった。気管支喘息では IgG/alb 比 0.26, IgA/alb 比 0.11, IgM/alb 比 0.01, IgE/alb 比 0.89, His/alb 比 1.38 であり健康人に比し, His/alb 比の高値が認められ, 喘息の型別ではアトピー型において高値が示された。過敏性肺臓炎では健康人に比し BALF 中 IgG/alb 比, IgM/alb 比の増加が認められたが, サルコイドーシス, 細気管支炎は今回の検討では健康人に比し, 有意の差は認められなかった。

第 2 編 気管支喘息において BAL を実施し, BALF 中の出現細胞, アリルサルファターゼ (AS) について検討を加えた。健康人 8 例の BALF 中出現細胞の平均はマクロファージ 87.0%, リンパ球 12.1%, 好中球 0.6%, 好酸球 0.3%, 好塩基性細胞 0%, AS/alb 比の平均は 6.2 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ ) であった。気管支喘息ではマクロファージ 57.1%, リンパ球 13.2%, 好中球 8.6%, 好酸球 21.0%, 好塩基性細胞 0.1%, AS/alb 比の平均は 9.8 ( $\mu\text{g}/\text{mg}$ ) であり, 健康人に比べ好中球, 好酸球の増加が認められ, 好酸球はアトピー型に, 好中球は難治性喘息に増加がみられた。AS/alb 比は, 喘息の型別ではアトピー型で増加がみられ, BALF 中好酸球出現率や好酸球数と正の相関を認めた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、気管支喘息を中心に各種呼吸器疾患において気管支肺胞洗浄（BAL）を行い洗浄液（BALF）について検討を加え、ある種の疾患では含まれるIg・アルブミン・ヒスタミンの量に特徴があり、気管支喘息のBALでは好酸球はアトピー型に、好中球は難治性喘息に増加がみられることなどを明らかにした価値ある業績である。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。